広報 いずみざき

村づくり五原則

一、皆んなで手をつなぎ生きがいと幸せをつくろう。
一、きれいな環境と健康なからだをつくり快適な生活をめざそう。
一、知性と教養を高め文化の営みをさかんにしよう。
一、働く喜びを味わい豊かな生産を上げよう。
一、皆んなで心を合わせ平和で明るい郷土をつくろう。

昭和61年3月1日発行　（第224号）　編集・泉崎村役場総務課　印刷・野木印刷所

保育所

未来に翔く子供たち
強く、かしこく、そしてやさしく
育ってほしい。

昭和61年
3月号

募集

保育所では61年度入所児を募集中!!

対象児 ― 保育に欠ける乳幼児（10カ月～5才児）

詳しくは役場住民課又は保育所までお問い合せ下さい。

〈村のうごき〉

	人口	人口	合計	世帯数
今月（2月1日現在）	男 2,896人（－5）	女 2,954人（－1）	5,850人（－6）	1,238戸（＋3）
前月（1月1日現在）	男 2,901人	女 2,955人	5,856人	1,235戸

泉崎村赤十字奉仕団結成される

〝すべての人々のしあわせを願い陰の力となって奉仕する〟を目的に泉崎村赤十字奉仕団が結成されました。

結成式は去る一月二十日村老人福祉センターにおいて、関係各位、来賓多数を迎えて行なわれました。その中で奉仕団信条を全員で唱和し奉仕団の尊い使命を確認し、これからの事業に全員一致で取りくんでゆこうと誓いあいました。村としても、本会の結成が地域ボランティアの基盤となることを願い、その活躍に多いに期待しています。

団員は二十四名、役員は次の方々です。

委員長　本柳　タイ
副委員長　大塚美代子
〃　穂積　清子
委　員　田崎　昭子
〃　坂本ハル子
〃　久保木ヤイ子
監　事　小林　恒子
〃　磯貝　淑子
庶務会計　鈴木サタ子

泉崎村赤十字奉仕団
委員長　**本柳タイ**

新しい年を迎え、何もかも出発!!　というとき、去る一月二十日、泉崎村老人福祉センターに於て、村長さんを始め、日本赤十字社福島県支部並に西白河地区の方々及び来賓各位の出席をいただきまして「泉崎村赤十字奉仕団」の結成式を迎えることができました。

私たちは去る五月、皇居勤労奉仕団として、東宮御所へ参りました折、皇太子殿下、美智子妃殿下にお会い致し、やさしいお言葉を頂き団員一同感激して帰ってきました。

その時美智子妃殿下は日本赤十字社の総会に出席され、お帰りになりましてすぐ私たちにお会いになられたのでした。

私たちは泉崎へ帰りましてその時の感激が忘れられず、この奉仕団員みんなで何か社会に奉仕できるものはないだろうかと、いろいろ話し合い、「そうだ赤十字奉仕団を作ろう!!」と、話がまとまり早速一人でも多く……とみんなに呼びかけ、村当局にいろいろお世話になり「泉崎村赤十字奉仕団」が結成されたのです。

今世界の情勢に大きく目を向けますと、食べ物がなく飢に困っている人、思わぬ災害によって苦しんでいる人、またからだが不自由になりみんなのお世話になっている老人など、私たちを取りまく社会はさまざまです。この社会のために、ボランティア活動の基本である「すべての人が明るく、健康で、人間らしく、幸せに生活できる社会」を作り上げるために、これからみんなで活動していきたいと思います。

現在団員は二十七名ですが、みんなで誘い合いながら、赤十字奉仕団の輪を大きな輪に広げていきたいと思いますので皆様の入団を心からお待ちしております。

♡♡♡♡♡……何でも話せる明るい家庭

―小中学生「家庭の日作文コンクール」入選者決る―

いじめ、暴力、万引き、家出等、毎日のマスコミに報じられない日はないほど、青少年の非行が問題になっています。村では、青少年の健全育成はまず、〝何でも話せる明るい家庭から〟として、この度「家庭の日作文コンクール」を行ないました。

小学校二百九十四点、中学校二百十三点と多数応募があり、去る二月十四日、審査会が行なわれました。

審査は、菊地民生委員、本柳婦人団体連協会長、両小学校長、佐藤中学校教諭助役、教育長、公民館長、住民課長らで慎重に行なわれ子供たちは、明るい幸せな家庭をいかに切望しているかがわかる、いずれも力作ぞろいの中から次の方々が入選しました。

審査部門	(小学校の部)題名		(中学校の部)題名	
	学年	氏　名	学年	氏　名
最優秀賞(各1点)	6年	小室　忍	3年	兼子幸恵
優秀賞(小学校4点 中学校2点)	6年	五十嵐芳次	2年	菊地英一
	6年	佐藤憲文	3年	鈴木正隆
	4年	海上　史		
	5年	北村幸子		

審査部門	(小学校の部)題名		(中学校の部)題名	
	学年	氏　名	学年	氏　名
佳作(小学校5点 中学校5点)	4年	熊田久美子	1年	三村有希
	5年	年本逸人	3年	清水あかね
	5年	鈴木愛子	3年	石塚祐美子
	5年	北沢智恵	1年	松山由美
	5年	佐川美雪	2年	木野内悟

家庭の日について

泉崎村立泉崎第一小学校
六ノ二　小室　忍

私は、「家庭の日」があることを、初めて知りました。「家庭の日」とはいったい何なのでしょうか。私は、あまりよく分かりません。

そこで、私は、社会の中で大きな問題になっている、「いじめ」と「家庭の日」を関連づけて考えてみようと思います。

今、いじめがたいへんふえています。しかも、いじめがエスカレートして自殺してしまう人も少なくはありません。いじめは、なぜおきるのでしょう……。

みんなが、楽しく、すばらしい学校生活をおくっていれば、また、楽しく、あたたかい家庭ができていれば、いじめで自殺をする人は全くといっていいほど、なくなると思います。

それが、いじめが原因で自殺がおきると、『学校が悪い』とか、『家庭が悪い』とかで真けんにとりくんでいないのではないでしょうか。

また、自殺までいく前にどうして分からないのでしょうか。それに、子供のことをよく知っている、親も、先生もなぜ分からないのでしょうか。いやちがいます、分かってやろうとしないのです。自殺をする人は、考えに考え、自殺をするのです。自殺まで(死まで)おいこむのは、だれでしょうか。私は、学校や、級友や家庭ではないかと思います。

また、自分の心をうちあけたい、でもうちあけられる人がいない。級友に助けてもらいたい、でも助けてもらえない。こういう悲しい事が自殺までおいこむのです。

ですから、このようないじめ、あるいは自殺をなくすためにも、「家庭の日」を設けたことは、とてもすばらしいと思います。

親と子の明るく楽しい団らんが少ない家庭や、必死にいじめにとり組まない学校も考えるべきではないでしょうか。

いじめや自殺をなくすために、「家庭の日」で、このようなことをすればよいと思います。まず一つめは、「家庭の団らんを多くすること」です。これは、親と子コミニュケーションを深めるためです。

もう一つめは、「学校で、級友と先生との会話を多くする」これは、なんでもうちあけられる楽しい学校をつくれるようにすることです。

こんなあたたかい生活が出来れば、最高に楽しいことではないでしょうか。

そして、豊かで、すばらしい、日本一の村になるように、村民ががんばらなくてはいけないと思います。

また、泉崎村だけでなく、いろいろな村、町、市など教えあって、すばらしい福島県にすればよいと思います。

「休肝日」意識調査まとまる

知っている90％　実行している80％

昨年十一月に保健協力員の協力で実施した「休肝日に関する意識調査」がこのほどまとまった。

この調査は、全世帯を対象に保健協力員が戸別訪問し、聞き取り調査したもので九百二十七人（七五・九％）から回答を得た。

その結果、多くの村民に「休肝日」運動が実行されていることがわかった。

‖回答率七五・九％‖

この調査は全世帯千二百二十二を対象に実施したもので九二七世帯（七五・九％）の回収。

年令別、男女別回収状況は別表の通り（図１）。

‖浸透率高い休肝日‖

「九、二十九日」の月二回の休肝日を知っている人が七一八人（七七・五％）と村民への「休肝日」浸透率が高いことがわかった。（図２）

‖体肝日実行八七・七％‖

休肝日を実行しているか？との問いに対し「毎回実行」が三八％、又、何らかの形で「実行している」が六八・九％と殆んどの人が休肝日を実行していることがわかった。（図３）

‖高年令ほど高い実行率‖

更に実行している割合を年令別にみると年令が高くなるにつれて「実行している」率が高くなっている実態があきらかになった。（図４）

実行していると答えた人に、「どのように実行しているか？」については、四四・四％が「休肝日には絶対に飲まない」と答えている。

さらに、休肝日をもうけてから意識が変わったことがありますか？の質問に対し「関心を持つ、飲み過ぎに注意する」と答えた人が四百四十一人（四七・六％）と約半数の人が健康に関する意識が変わり、特に四十歳から五十九歳の年令層に関心が高くなっている。

（図１）　回収状況

	配布数	回収数	回収率	年令別、男女別回収数						
					～29才	30才～39才	40才～49才	50才～59才	60才以上	計	年令不明
全体	1,222	927	% 75.9	男	18	217	233	239	119	826	
				女	4	20	18	16	9	67	34
				計	22	237	251	255	128	893	

図２　休肝日はいつですか

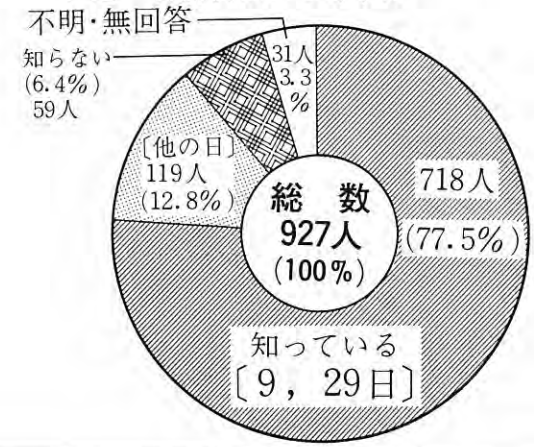
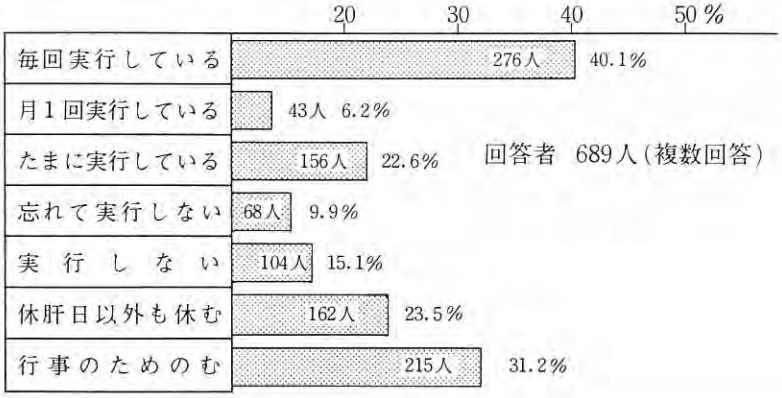


図３　休肝日を実行していますか



＝休肝日数（月二日）…今のままがよい＝

「休肝日の日数についてどう思うか?」という質問に対し六一・六%が「現在のままでよい。」と答えている。（図5）

＝家庭の協力度 五十九%＝

〝休肝日について家庭の協力が得られますか〟については「得られる」と答えた人が五百七十六人（五九%）になっている。

内訳をみると、妻による協力が最も多い。

反面、〝得られない〟と答えた人が百十七人（十二・六%）おり、家族の協力というものが実施してゆくうえで特に必要であると感じられる。（図6）

＝評価高い 保健協力委員の努力＝

現在、保健協力委員が広報活動しているが〝PRの方法についてどう思うか?〟について「現在のままでよい」六百一人（六四・八%）と高い評価を得ており、「休肝日」に対して、村民への意識は浸透しているものの広報活動への期待が高い。（図7）

＝まとめ＝

このように、今回、初めて「休肝日」についての意識調査を実施したが、村民の九割が「休肝日」を知っており、八割が、何等かの形で実行している。

さらに「休肝日」を設けることにより、健康についての関心を持ち、お互い、飲み過ぎないよう注意し合っていることがわかった。

酒は〝百薬の長〟と言われるが、自分の適量を守って、月二回はアルコールを控えて、休肝したいものです。

＝毎月「九日・二十九日」は、アルコール類を一切、口にしない「休肝日」。＝

「休肝日」運動は、アルコール依存症などアルコールによる疾患が社会問題となっていることから昭和五十九年十月の村議会で決議され、保健協力委員会（会員七十人、穂積清子会長）が推進母体となり月二回、広報車で村民に呼びかけている。

図5　休肝日の日数についてどう思いますか。

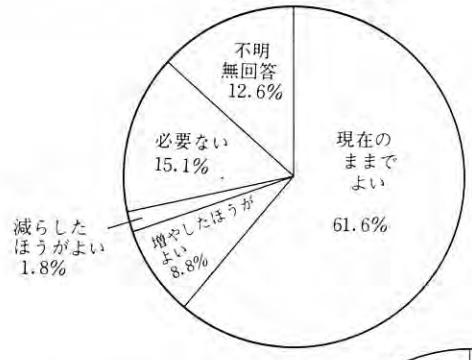


図6　休肝日について家族の協力は得られますか。

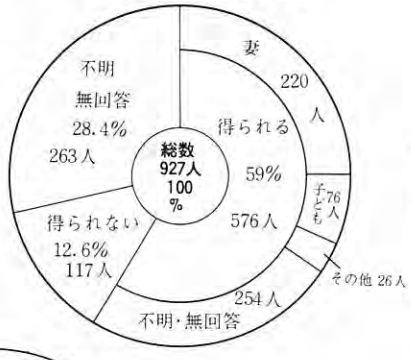


図4　「実行している」「実行していない」

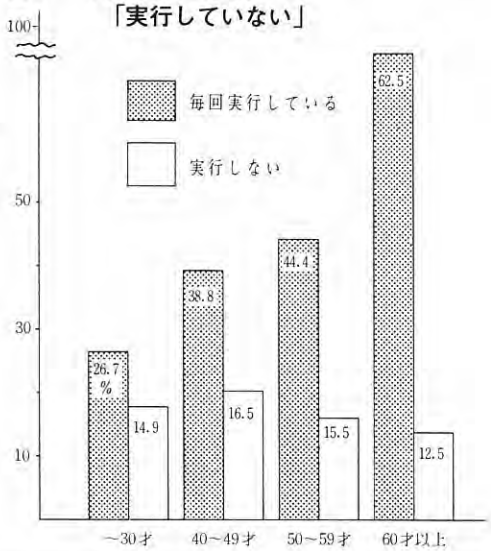
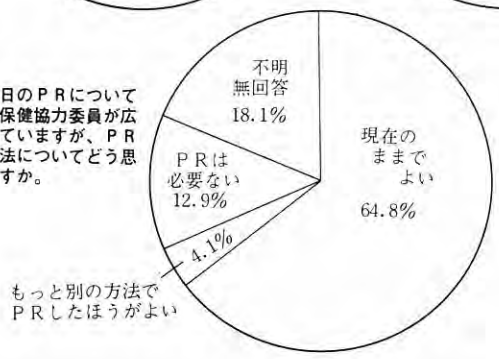


図7　休肝日のPRについて現在保健協力委員が広報していますが、PRの方法についてどう思いますか。



議員研修

企業的農業視察
――三重県赤塚植物園

新しい需要と、市場の開拓を図る赤塚植物園のアイデア商品の陳列

赤塚植物園は、三重県津市の北部、伊勢湾から西へ八キロメートル、鈴鹿山脈から東へ十キロメートルの伊勢平野の中間地帯の風光名眉な温暖の地であり、この地方は黒ボク土壌で甘藷、陸稲、タバコ等が作られている。

赤塚植物園から全国に出荷されている「**三重さつき**」は鈴鹿地方に次ぐ植木の産地として知られている。現在約一五〇*ha*の植木面積があり、内一〇〇*ha*が「三重さつき」で占められ年間気温平均一六・七℃である。

「**三重さつき**」は昭和三十年頃より栽培され、甘藷、黒芋等に変わって徐々に三重さつきが導入されはじめ、現在では毎年一五〇万本が全国に出荷されているという。近年特に密閉ざしが急速に普及して苗の安定生産に大きく貢献している。

又各連作障害については、特に若いグループが中心となり普及所、県技術センターとの連携の中で対策の確立を急いでいる。三重さつきは、全国生産の七〇パーセントの「シェア」を今では占めている。

花きの「**メリクロン**」**栽培**にも成功する。

三重さつきに次ぐ「メリクロン」栽培による**シンピジュームの大量生産**によって、土台を築き上げ、現在では国内に「メリクロン」

施設などを備えた三つの農場がありその取引きは広く世界に及んでいる。シンピジュームや観葉植物の技術などの栽培方法を工夫して**新しいスタイルのギフト商品、インテリヤ、アクセサリー**などの新しい需要と市場の開拓を図るアイデアに満ちた企画もすばらしく参考となった。

「**メリクロン**」**栽培とは**、洋ラン等の革命である生長点培養と、優良品種の新芽の生長点を取り出し、無菌培養することによって、親株とまったく同じ性質の苗を何千、何万本とふやすことができる画期的な方法であり、これによって三重県地方の企業的農業が可能になったといえる。

三重さつき、洋ラン、シンピジューム等の栽培のほかに今脚光を浴びている、生垣用の「**三重紅カナメ**」があり、色もあざやかで最高の植木とされているが、需要が多く、注文に応じきれない現状であるという。

赤塚社長に今後の抱負を聞いてみた。

海外を歩くことで、日本の園芸の新しい方向を模索してゆきたいと。花と緑で世界を結ぶ花を作り、世界を自由に交易することは、世界の平和と幸福のために、きっと役に立つことを確信していると抱負を話していた。

世界でもすばらしい「メリクロン」栽培等の画期的な栽培を成し遂げ国際化時代への農業をめざし世界に飛躍する赤塚植物園の今後の活躍と御発展を祈るとともに、懇切なる指導により議会研修が所期の成果を得た事を心から御礼申し上げたい。

議会事務局長
鈴木俊貞

交通安全家庭のちかい

三六二九名が署名
＝川崎・関平交通安全母の会＝

関平交通安全母の会（美沢美枝子会長）と川崎交通安全母の会（菊地美津子会長）は、新年初めから十日間にわたって家庭内から悲惨な交通事故の加害者、被害者を出さないため、幼児からお年寄りまで各世代が同居している家庭内において、家族みんなが交通安全について話し合い誓いあって一人ひとりの自覚を高め交通事故を防止するため交通安全家庭の誓い署名運動を実施しました。その結果がこのたびまとまり、三六二九名の署名簿を得て副会長（小針隆子、兼子春枝、木村ハツエ、天倉美智子）四名と一緒に、一月二十三日泉崎村交通対策協議会（箭内知道副会長、中野目辰善助役）に手渡し交通事故防止を約束しました。

交通安全家庭のちかい

1. 道路をわたるときは必ずとまり、右左をよく見ます
2. 車のすぐ前、すぐ後ろはわたりません
3. 交差点では必ず安全を確かめます
4. 自転車に乗る時も交通ルールを守ります
5. シートベルト・ヘルメットは必ずつけます
6. 飲酒運転は絶対にしません
7. 思いやり・ゆずり合いの心で運転します

〝交通安全に役立てて〟

星　彰さん

今年還暦をむかえた星彰さん（泉崎字川畑）外五十三名の方々から、交通安全、事故防止に役立ててと、村交通対策協議会にご寄附をいただきました。本当にありがとうございました。

交通功労者表彰される!!
＝箭内知道交通安全協会長外の方々＝

昨年十月二十九日、交通安全県民大会（原町市）において、交通安全協会泉崎分会長、箭内知道氏が永年に亘る交通安全活動や分会活動を推進してきた功労に対し、福島県警察本部長、県安全協会長連名による交通功労者として表彰されました。

又、十二月九日交通安全白河支部大会において、交通指導員として十五年以上に亘り活動している大木吉三氏に交通栄誉章（緑十字銅章）が伝達されました。

更に、交通安全広報や街頭指導など交通安全活動に尽力している石塚孝雄、大森重光、星和夫、山本一男、須藤行義、の五氏に白河警察署長、安全協力支部長連名による、交通功労者として表彰されました。

その他、十年以上無事故無違反の優良運転者に対し表彰がありました。

受賞者は次のとおりです。

溝口秋子、辺見シン、久保木洋子、白岩三喜男、鈴木喜代子、星巌、五十嵐チヨノ、深井子之吉、佐川大助佐川房子、中畑貞雄、本柳辰一、荒井政善、山本和文水野サチ子、行武作治、常盤アイ子、海上春美、海上スミ、海上京子、星美信、星信子、福永昭實、穂積ナミエ、有賀桂吉、佐川昭栄佐川定、大沢マサ、駒橋五十六、北住一也、以上三〇名。

箭内知道安全協会々長

おめでとうございます

「昭和六十年国勢調査」

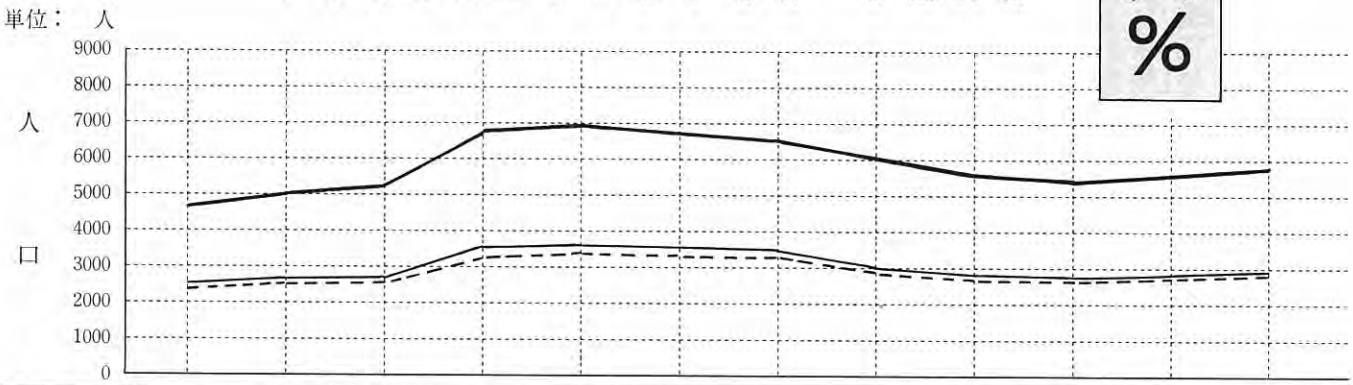
県内九位 人口伸び率 四・六％

調査員の方々を初め村民の皆様の御協力を得て昨年十月一日現在で行われた昭和六十年国勢調査の人口概数が昨年十二月発表になりました。

これによりますと、本村の人口は男二、八四四、女二、九四六、総数で五、八三四人となりました。伸率でみますと、四・六％と県内九十市町村中第九位となりました。

県内の増加市町村をみると、九市二二町一四村の四五市町村が増加し、特に増加率トップの西郷村を初め西白河地方の伸びが目立ちました。一方、減少した市町村は四五市町村あり、地域的にみて会津山間部、阿武隈山系の山間部に減少傾向が目立ちました。

下に本村の昭和五年以来の国勢調査による人口の推移の折線グラフを載せてみました。これでみると、昭和二五年を境に増加から減少に転じ昭和五十年以降徐々に持ち直していることがわかります。また、昭和二二年時に急激に人口が増加し、加えて女性の比率が高くなったのは、戦争の影響でしょうか――。



年度	S５	１０	１５	２０	２５	３０	３５	４０	４５	５０	５５	６０
― 総数	4699	4988	5130	6713	6957	6736	6541	5993	5490	5358	5577	5834
･･･ 男	2282	2441	2517	3187	3350	3254	3173	2925	2699	2638	2768	2844
― 女	2417	2547	2613	3526	3607	3482	3368	3068	2791	2720	2809	2946

社会学体験？したヨ

楽しいお店屋さんごっこ＝幼稚園

去る14日、ホールに於て年少組107名全員による〝お店屋さんごっこ〟が、にぎやかに繰り広げられた。

おもちゃ屋、花屋、本屋お菓子屋、果物屋と、子ども達が考えた夢のある店ばかりが出店、この日まで、話し合いや、品物作りにと一週間前より、楽しく準備を進めてきた三百点余りの品物が所狭して陳列され、いよいよ開始である。

役割をそれぞれに分担し「いらっしゃいませ。」「いくらですか。」「ありがとうございます。」と、「なったつもり」で活発にやりとりをかわす様は、さながら大人顔負け(?)と言ったところである。

開始10分後、早くも、「本屋」が売り切れを宣言するほどの大にぎわいである。

子ども達それぞれの顔がきらきらと輝き、終始、笑みがこぼれ、思う存分、遊び込めた一日であった。

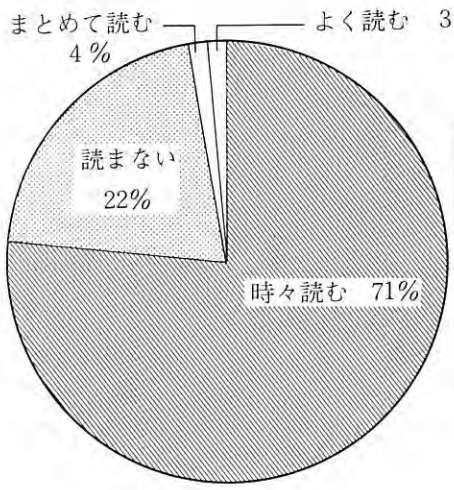
総合的な活動といわれるこのごっこ遊びを、子どもの意欲を十分実現できる、豊かな活動として、今後もたくさん経験させたいものである。

お店屋さんゴッコだよ

読書しましょう!! 一日30分

村民読書運動展開中

本本本 本本本本本 ときどき読書する71%



村民読書運動が推進されて早や十ケ月、村内の小中学生の父兄の協力のもとに読書に関するアンケートを依頼しましたが次のような結果にまとまりました。

一、テレビを見るのが好きです。九五%（二～三時間みる 七七%）
テレビを見るのが嫌いです 五%（理由・騒々しい、見る時間がない）

二、読書をしますか。
一ケ月二冊読む（六%）
一ケ月三冊読む（四%）

三、どんな本を読みますか
一位 週刊雑誌類
二位 マンガ・小説
三位 専門書

四、移動図書館「おおぞら号」を知っていますか。
知っている、利用したい 七〇%

アンケートは多くの方が読書に深い関心を持っていることを表わしています。テレビを見る時間を三十分短くして「一日三十分、一ケ月一冊」を目標に挑戦してみましょう。家族で読書をする情景があの家庭、この家庭で多く見られれば村民文化の向上につながるのではないでしょうか。

◎移動図書館「おおぞら号」運転の案内

●関平地区 3月14日

堂ノ下公民館	10：00
⇩	
新田四辻	10：30
⇩	
ニュータウン公園前	11：00
⇩	
関平農協前	11：30
⇩	
瀬知房（田崎文能宅前）	13：30
⇩	
都橋山給食センター前	14：30

●川崎地区 3月28日

太田川公民館	
⇩	10：00
踏瀬火の見	
⇩	10：30
愛宕山公民館	
⇩	11：00
桎内改善センター	
⇩	11：45
川崎農協前	
⇩	14：00
高根改善センター	15：00

○貸し出しは、一人三冊とし次の巡回日に返却する。

○お願い⇩ご家庭で読み終えた本がありましたら図書室（こども、おとな向）にご寄付をお願い致します。電話をいただければ受取りに参ります。（公民館五三―二二五八）

【館長より】

全村読書運動を展開して十か月、僅かながら読書人が増しているが読まない人に較べると物の数でない。

心を楽しませ心を豊かにしてくれることがわかっていても読書のひまを見つけることは容易ではない。

読書は「ひま」を見つけつくることから始まる。

国保の窓

国民健康保険の運営

運営は市町村

国民健康保険の事業を運営するもの（これを保険者といいます）は、わたしたちの住んでいる市町村です。

加入者＝被保険者

保険税を払って国民健康保険に加入する人を**被保険者**といいます。

一人ひとりが被保険者

国保では世帯主であろうと家族であろうと一人ひとりがみんな被保険者です。

ただし、世帯ごとに加入することになっていますから、家族一人ひとりが被保険者であるからといって、それぞれ加入の手続きをとったりすることはありません。

世帯主がまとめてやります。

加入は世帯ごと

国保には世帯ごとに加入することになります。そして、一世帯に一枚の被保険者証が交付されます。

同じ住居に住んで家計がいっしょの人は同じ世帯になります。

住込みの店員や使用人、お手伝いさんなどは雇用主と同じ住居に生活しており、賃金の支払いがなく、生計を一つにしていると認められる場合は雇用主と同じ世帯になります。

ただし、賃金の支払いがあり、生計を一つにしていないと認められる場合は、それぞれ世帯主となります。

十四日以内に届出を

世帯主のかたは、自分の世帯に属する被保険者の資格に異動があったとき（他の保険にはいったとき、他の保険をやめたとき、他市町村へ転出したとき、子どもが生まれたとき、転入してきたとき、加入者が死亡したときなど）は、十四日以内に届出をしなければなりません。

世帯主は加入や脱退などいろいろの届けをしたり、保険税や医療費の一部を支払ったり請求したりする責任があります。

国保に加入する日・やめる日

加入する日

①転入してきた日（職場の医療保険に加入してない場合）
②職場の健康保険をぬけた日の翌日
③出生した日
④生活保護をうけなくなった日

やめる日

①他の市町村へ転出した日の翌日
②職場の健康保険へはいった日の翌日
③死亡した日の翌日
④生活保護をうけはじめた日

歯の健康

「良い歯で良く噛み　よい体」

歯の生涯

人と歯のつき合いは、生後六ケ月頃乳歯が生え始めた時から始まります。そしてこの子供の歯（乳歯）は順番に永久歯と呼ばれる生え替ることのない大きく強いものと交代し、物を噛み、味わいそして発育の助けをし、時には顔つきを美しく、また醜くし時には痛み歯の存在を思い起させたりしてくれます。

その昔、人生五十年といわれていた頃は、その年齢以上に歯を保たせる必要がなかったためか、寿命が延びた現世代になっても、この年に近くなる頃から歯を失う人は増えています。

歯の役割

一、歯の第一の役目は、やはり噛むことです、特に奥の方の歯は、噛みくだく能力に優れています。だからこれを抜くと噛む能率が下るので、よく噛めないという現象が起ってきます。しかし人間とは面白いもので、たとえば抜く前に十～十二回位噛んで呑み込んでいた人は、抜いた当時は、少し回数を多く噛むようにしますが、すぐに以前と同じ回数噛んで呑み込む習慣に戻ってしまいます。そして結局、胃に負担をかけ体をこわす原因となってゆきます。

一、発音これも歯の役割の重要な部分をしめます。奥歯が抜けると大きな声を出す時に、障害がありますが、前歯はその影響が特に大きくサ行、タ行を始め、英語の発音にも影響があり正しい発音ができません。さらにたくさんの歯がなくなるとフガフガになって聞きとれないことも起ってきます。

一、顔つき、顔つきは年齢とともに変化するものです。これは皮膚のつや、緊張、色などの他、顔のたるみが齢を感じさせます。同じ齢でも歯があると頬のたるみは余りなく、奥歯がなくなると急にたるんできます。それは下顎が噛むたびに齢のあった時より深く噛み込むためです。

村長の執務日誌

献血に思う……

はじめに

二月七日と十三日の二日間を泉崎村の献血デーということで協力をお願いしたところである。

以前からもそうであるがこうした尊い献血運動に協力をいただいた村民の皆さんに心からのお礼を述べたい。

―命の備えを献血で―

血の一滴は命の一滴といわれる。血液は命が芽ばえたときから私たちの体の中で一刻も休むことなく生命を守ってくれている。

酸素や栄養は人間の生活に欠かせないがこれを体じゅうに運んでくれるのが血液である。そればかりではない、体の中で不要になった炭酸ガスや老廃物を排泄したり体温の調節をうけもってくれているのがこれもまた血液なのである。

人間はいつ重症の病気にならないとは限らない。

また、なま身の人間、いつ事故に出合って大ケガをしないとは限らないわけである。

病気やケガなどで血液が多量に失なわれると人間は生命のいとなみを続けることができなくなり遂に死に至る。こうしたことのないよう人の命を血液の準備の面から万全を期したいものだ。

このようなときお互いの命をお互いの理解と尊い心の寄せ合いによって誰にでもスワという事態のとき心配なく輸血ができたらたいへん助かるわけだ、喜びも一入大きいことになる。

人の命も血液も進んだ科学の時代とはいえ科学の力によってつくることはできない。しかし人の心によって、つまり善意という大きなそして尊い力によって救うことができるわけだ。

献血の理想とそのための運動もここから始まるのだ。

従来輸血といえば血液の全成分をそのまま輸血していたが医学の進歩に伴って今日では献血された血液を赤血球・血小板・血しょうなどの血液成分に分離し必要な成分だけを輸血する成分輸血が主に行なわれているといわれる。血液成分だけを輸血するので不必要な成分による副作用の防止と量的に少量ですみ循環系への負担が少ない等多くの優れた点があるようだ。また一人の献血で最大限三種（赤血球・血小板・血しょうなど）に分離されるので一人の献血で三人の治療に役立つといわれる。

また、一定の血液成分だけを採血し他の血液は献血者の体内に戻すなどかなり技術的進歩がはかられているようである。

しかしこんなに進んだ世の中でも人の血は製造できないのだ。

―献血と村づくり―

健康な人々の献血が人々の命を守り健康をつくっていく。このことを地域を中心に考えると地域の人々の命と健康が献血者の理解と善意によってつくられるわけだ、つまり村民の善意の協力が村民の健康なくらしをつくることに大きな貢献を果しているわけだ。

村づくりの大きな力がこの面から裏うちされていることは喜ばしい限りである。

ひところ買血による民間の血液銀行が売血を常連とする低所得者の健康を害しまた、その悪い血の輸血がもたらした肝炎など、いわゆる黄色い血の弊害に批判が集ったことも記憶に新らしいことである。

国、日赤、地方公共団体が献血思想の普及に立ち上ったのもこのためであるしきれいな血、健康な血の確保に村も保健所も本腰を入れてお願いしているのもいわば社会連帯の思想によってお互いの命を守ろうとする考えからだ。

―泉崎村の献血のようす―

泉崎村の献血のようすを見てみると今までは理想に照しじゅうぶんであるとはいえなかった、県平均を下回り人口目標からして六十％台であった。

一方輸血を必要とする患者の実態は長期的に見て他の市町村と同じ率と見てよかろう。率直にいって遅れがある。

村民の皆さんの献血思想の深まりと広まりを期待したいところだ。

今回の献血デーでは強いお願いに応えてくれた多数の協力者のせいで目標二七二人に対し二九四人（一〇八％）の実績を上げることができて不名誉を挽回し六十年度の面目を果し得た次第である。協力をいただいた方々に対し心からの敬意と感謝の念を表したい。

健康は村をつくる最もだいじな柱だ。献血は人の輪命の輪だ、村づくりは人の和、心の和だ。たいせつな思想をもっともっといっぱいにしてすばらしい泉崎村になれることを心から願いたい。

以上

（二月十三日）

商工会って……？

地域と共に歩み発展します。

〈商工会とは〉

○金融についての相談、斡旋

国民金融公庫、中小企業金融公庫、信用保証協会、
商工組合中央金庫

○取引についての相談

企業間における取引のあっ旋、業者の紹介

○経理、経営についての相談、指導

企業経営や経理の諸問題、企業診断と経営分析の実施

○労務問題についての相談、指導

就業規則、給与規程等各種諸規則等の作成指導、
その他労務関係の相談

○その他商工業一般に関する一切の相談、指導

商工会は親身になって経営指導員が相談に応じています。

毎日の取引を記帳することにより、経営の状態を見直すことができますので営業方針の決定や経営の合理化、あるいは事業の発展に役立つことになります。そのうえ税務計算の面でも数多くの特典があり節税がはかれます。

泉崎村商工会
電話　53－2202　　お気軽になんでも相談

経済講演会のお知らせ

講師　福富　達氏（とおる）

日本テレビ、ニュース解説委員長
日本テレビ、ジャスト・ニュース キャスター
テレビスクランブル出演
ズームイン“朝” キャスター

テーマ　政局と経済の見通し
日　時　昭和61年3月24日㈪午後5時30分
会　場　泉崎村商工会館（予定）

伸びゆく企業

福島岩通KK泉崎工場

1、所在地
2、創立年月
3、代表者名
4、従業員数…男女別（　）内は村内在住者数
5、資本金
6、製品名
7、年商
8、貴社の特色、抱負、PR、村民の皆さんへ一言メッセージ、要請要望等

1、関和久字石名田91
2、昭和六十年三月十四日
3、代表取締役　高橋知親
取締役工場長　倉上匡水
4、八十六名
男三十一名
女五十五名
（泉崎村内在住15名）
5、一億円（本社含む）
6、電子ボタン電話装置
7、約百五十億円
（須賀川本社工場含む）
8、当社の親会社は、東京都杉並区にある岩崎通信機KKで、通信機器、計測器、製版機、等を製造販売している、年商八百五十億の会社です。通信機器のうち市販の電話機を一手に生産しているのが、我が福島岩通です。

福島岩通は、須賀川に本社工場があり、そこでプリント板やユニットを生産しこの泉崎工場で、最終の組立をしています。製品の電話機は、東京の岩崎通信機を通して、国内、国外に出荷しています。泉崎工場では、今はまだ、板金、塗装と、電話機の最終組立だけですが、いずれプリン板や、ユニットの工場も建設して、電話機の一貫生産工場をめざしていきます。今でも、コンピューターで動くNCT板金装置や、塗装ロボット、組立ラインにも色々なロボットを導入して近代化を図っています。

当社では、品質の良いものを安くお客様に早くお届けすることをモットーに、社員一同努力しております。又、私共はこの泉崎の地域の皆さんと共に発展する企業でありたいと願っております、今後共よろしくお願い致します。

福島岩通KK泉崎工場の皆さん

新製品情報

家庭用の卸電話機
アイリーン・フリーハロー
受話器を持たなくてもお話しのできる電話機です。ただ今、泉崎工場で組立中。

自動車の登録申請を忘れずに……

最近、登録申請の怠り等からトラブルや苦情が多くなってきています。

○住所、氏名が変ったら（変更登録）

○自動車を他人に譲渡したら（移転登録）

○自動車を解体または使用しなくなったら（まっ消登録）

等が発生した場合は、すみやかに登録手続をしてください。

登録申請の手続きを怠って放置しておりますと

○まっ消しない限りいつまでもあなたに自動車税がかかります。

○納税通知書が届かないことになります。

○名儀人のあなたに自動車税がかかります。

○手放しした自動車の行方がわからなくなると、まっ消登録（廃車）の手続きもとれなくなります。

○万一その自動車が事故をおこした場合、名儀人のあなたが責任を問われます。

くわしくは、県税事務所（電話　〇二四八―二二―二一一一・内線二一三）へおたずねください。

登録申請に必要なもの

登録区分＼書類区分		あなたが準備するもの								申請用紙類					自動車税申告書
		自動車検査証	自賠責保険証	ナンバープレート	印鑑	印鑑証明書	住民票	資産証明書	戸籍謄本	登録申請書（マークシート）	手数料納付書	譲渡証明書	委任状	車庫証明書	自動車税申告書
変更登録	住所変更	●	●		●		●	●		●	●		●	●	●
	氏名変更	●	●		●		●	●	●	●	●		●	●	●
移転登録	売主が準備	●	●		●	●						●	●		
	買主が準備				●	●	●	●		●	●		●	●	●
まっ消登録		●		●	●	●				●	●		●		●
取扱っているところなど		お手許にあるもの				市町村役場から				自動車販売店・行政書士事務所・自家用自動車協会などから					自動車税事務所

公民館だより

〃文芸「とうげ」発刊〃

泉崎村で毎年発刊される唯一の文芸誌「とうげ」がペンクラブ発足十周年を記念して第十号がこの程発刊されました。

川柳、俳句、短歌、里謡随筆等の作品を寄せられた人は七十八名、小中学生の童詩、童句が九十一名、計百六十九名の作品が百十六ページに亘って載っています。

ペンクラブ員以外の人にも実費千円で頒布するので希望者は中央公民館内ペンクラブ事務局に申し込みください。

文芸「とうげ」第10号

〃ハレー彗星を見る会〃開催します。

みんなで見ようよ!!

約七十六年に一度だけ、はるか宇宙の彼方から地球に近づいてくる神秘的すい星を皆んなで、春の夜空に向って観察してみてはいかがでしょうか。

つきましては、その〃見る会〃を次のように計画致しますので、家族そろって或るいは、友達と一緒に参加されますようお待ち致しております。

一、日時　昭和六十一年四月五日（土）午後八時より
二、場所　泉崎村老人センター
三、会費　一人五百円
四、講師　郡山天文同好会　山田由雄氏外四名
五、申し込み　中央公民館まで直接申し込み願います。

小・中学生については、学習会を事前に開催して、参加について案内致します。

六、その他　当日、カメラ・望遠鏡のある方は、持参して下さい。

昭和六十年度職域卓球大会

二月十六日、村農業者トレーニングセンターにおいて開催された。寒さの中、熱戦が続いた、結果は次の通りです。

団体の部
優　勝　品川自動車電線
準優勝　泉崎村役場

個人の部（男子）
優　勝　小室孝志（品川自動車電線）
準優勝　北沢茂（泉崎村役場）

個人の部（女子）
優　勝　野崎　光子（明星電気）
準優勝　緑川　栄子（品川自動車電線）

新　中学一年生

新入生のきみたちへ

楽しかった小学校生活も終わって、きみたちはこの春から中学生だ。勉強についていけるだろうか、友だちはできるだろうか、クラブ活動は、いじめは……と、きっと不安な気持ちになることもあるだろうね。

だけど、心配なのはだれでも同じ。きみの友だちも、先輩も、それにお父さんだって、みんな中学生になる前は、心臓がドキドキしたはずさ。さあ、夢と希望をもって、元気に中学校生活を始めようじゃないか。

勉強

予習と復習で試験もへっちゃら！

きみたちも知っているとおり、中学校の授業は〃教科担任〃になる。科目ごとに先生がちがうわけだ。

一時間ずつ、べつの先生の顔を見ることができるのは楽しいし、何よりもたくさんの先生の考え方に接することができるというのは、若いきみたちにとってたいへん参考になると思うね。

それから、中学校には「中間試験」「期末試験」といって、試験がまとまってあるけれど、その目前になってから、あわてて勉強してもいい成績は取れないかもね。中学生になったら、その日の復習とこれからの予習を毎日やることが大切なんだ。

クラブ活動

きみはクラブに何を求める？

きみたちは、どのクラブに入るか、もう決めたかな？

中学校のクラブ活動は、先輩、後輩のけじめがはっきりしているけれど、その

少年教室 スケート練習会

楽しさいっぱい!!

去る二月九日(日)午前十時から表郷村関の里スケート場で行われた少年教室のスケート練習会は八名の指導者に見守られながら、楽しさいっぱいにすっかり上達して滑ることができました。参加した教室生は次の通り。(一小)石川広子、橋本一清、深谷昌弘、小林秀嘉、室隆広、大下佳子、中野目美穂、箭内弘勝、室真一、大野洋美、野崎かおり橋本悦子、菊地順子、瀧加奈子、松川貴男、鈴木美代子、野崎さおり、佐々木恭子、遠藤智、矢内武範、(二小)井上美紀、佐川あゆみ鈴木愛子、田崎淑子、片野由美子、飛知和東子、荒井恵美子、田崎めぐみ、田崎むつみ、以上二十九名。

指導者・穂積禎則、菊地幸次、佐藤義光、安藤政則、佐川弘正、北沢武夫、佐藤多佳子、田崎和子、(八名)引率付添・円谷泰秋

なお少年教室は去る九月開講以来、駅や史蹟の清掃奉仕等に活動し、レクリエーション等の研究をし子ども会のリーダー養成を狙って学習したが二月二十三日(日)で閉講しました。

"いずみの会"が図書の補修に協力

いずみ会のみなさん

泉崎村婦人教育指導者研修会修了生で結成された、「いずみの会」―会長鈴木てい、会員十三名―が一月下旬こども文庫や移動図書館の貸し出しで傷んでいる蔵書をていねいに補修して下さいました。定期的に開かれる例会で図書の補修を引き受けていただくことになり、いつでもきれいな本が読めることになります。なお、この会は村の婦人教育の向上、指導者の育成のために種々の方面で活躍され今後のますますの活動が期待されます。

(事務局―教育委員会)

毎月10日は
防犯の日
毎月20日は
少年を非行から守る日

みんな 胸ワクワク

友だちづきあい
一生の友を見つけちゃおう

中学生になると、勉強もクラブ活動もきびしくなるけど、それを一緒にがんばりとおした友だちとの友情は、それだけ強いといえるんだ。中学時代の友だちが、一生の親友になる場合が多いのもそのためじゃないだろうか。

ところで、「いじめ」がテレビや新聞で話題になっているけど、きみたちの学校からは、ぜったい「いじめ」をなくしてほしいな。そりゃあ、クラスの中には、どうしても好きになれない人がいるかもしれないけど、それをきみたちがいじめる権利はどこにもない。

それから、自分はいじめられるんじゃないかと不安になってるきみ。自分のどんなところが、みんなとうまくいかないのか考えてみよう。参考までに、友だちと仲よくするための注意点を教えるからしっかりおぼえてね。

- 髪や服装を清潔にする
- 自分の考えをはっきり言う
- 友だちづきあいを大切にし、態度を明るくする
- ウソをつかない
- 約束を守る
- 自まんしたり、いい気になったりしない
- ささいなけんかはしない

中学生になるってことは、子どもから大人に一歩近づいたってことなんだ。

中でいろいろな勉強をしてもらいたいな。

とにかく、クラブ活動に一度参加したら、自分なりの目標を立ててがんばることだね。三年間やりとおせば、しらないうちに積極性や忍耐力(にんたいりょく)が身につくし、仲間との友情も生まれてくるだろうしね。

今月の行事

―住民課―

7日㊎　1時～2時　妊婦検診　東村母子センター
14日㊎　1時～2時　3カ月児健診　白河保健所
19日㊌　1時～1時半　1才6カ月児・2才児健診、フッ素塗布　中央公民館

―中央公民館―

1日㊏　子ども将棋教室　各週、マナー教室
3日㊊　英語教室・各週
4日㊋　高砂学級運営委員会
5日㊌　おしどり学級・(第三水曜まで)
6日㊍　青年学級・各週、英会話講座・各週
7日㊎　第四回スキー教室(蔵王)
8日㊏　第一スポーツ少年団退団式
10日㊐　婦人議会傍聴
11日㊋　婦人学級・生花
16日㊐　西白地方体育指導員連絡協議会研修会
19日㊌　書道会
22日㊏　ペンクラブ例会
23日㊐　第五回スキー教室・台鞍山
24日㊊　婦人学級閉講式
25日㊋　体育協会総会
26日㊌　子ども文庫おたのしみ会・午前公民館　午後集会所
27日㊍　青年学級閉講式
28日㊎　高砂学級閉講式

―保育所―

3日㊊　ひなまつり
5・19日㊍　おべんとうの日
6日㊍　おそうじの日
7日㊎　満了児記念撮影
10日㊊　父母の会役員会
18日㊋　満了式予行練習
22日㊏　安全点検日
24日㊊～28日㊎　継続児午前中保育
29日㊏　満了式代休
31日㊊～4月4日㊐　家庭保育　昭和61年度入所児募集

―幼稚園―

3日㊊　ひな祭り誕生会
4日㊋　保育参観及び家庭教育学級(講演と閉級式)
5日㊌～7日㊎　身体測定
7日㊎　防火映画会及びミニ防火パレード
8日㊏　避難訓練
10日㊊　幼年消防クラブ退団式、移杖式
13日㊍　お別れ会
15日㊏　園内外美化の日
18日㊋　昭和60年度卒園式　修了式
19日㊌～春季休業

―泉崎一小―

4日㊋　授業参観
17日㊊　卒業生を送る会
20日㊍　修了式
22日㊏　卒業式　卒業生を祝う会
24日㊊　PTA総会

―泉崎二小―

4日㊋　授業参観
13日㊍　卒業生を送る会
22日㊏　修卒業式

―泉崎中学校―

1日㊏　学校安全の日
11日㊋　交通安全の日
12日㊌　3年生を送る会
13日㊍　卒業式予行
14日㊎　卒業式
16日㊐　県立高校入試
18日㊋　オコーナーさん来校
19日㊌　1・2年生保護者会
22日㊏　修業式
24日㊊　学年末休業日(31日迄)
25日㊋　新入生学力テスト　午前9時～

おいわい　おめでた　おくやみ

□結婚おめでとうございます。

新郎　新婦　住所
白石　伸雄　泉崎字長峯
　ヲサク　一番地
磯貝　春彦　北平山字新
　孝子　田三五番地

□出産おめでとうございます。

お子様名　父名
関和久字下町七十番地
井上　裕太郎　一成
関和久字富内八番地
北澤　祐太　春一
太田川字居平八番地
溝井　誠二　一
関和久字下町五十七番地
吾妻　千春　常行

■謹しんでお悔み申し上げます。

泉崎字外ノ入三十四番地
有賀　佐一郎　七十六才
関和久字富内百十番地
會田　チヨ　七十六才
関和久字瀬知房二十九番地
佐藤　秋雄　五十五才
泉崎字富久保十四番地
小林　重實　六十六才
泉崎字富久保十番地
小林　ミツエ　七十才
関和久字中宿百二十六番地
田崎　静男　四十才